

| | | | |
|-----------------|---------------------------|----|-----------|
| ○ 事業所名 | 柿が丘学園 | | |
| ○ 保護者評価実施期間 | 令和7年 11月17日 ~ 令和8年 1月 31日 | | |
| ○ 保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 33 | (回答者数) 19 |
| ○ 従業者評価実施期間 | 令和7年 11月 1日 ~ 令和8年 1月 20日 | | |
| ○ 従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 14 | (回答者数) 14 |
| ○ 事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年 3月 10日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 児童発達支援計画作成に関して、ガイドラインに基づき項目を設定し、具体的な支援内容を全職員で話し合い明記し、それに基づいた支援を全職員で行っている事。 | 支援する職員の全員参加を原則とする個別支援会議を開き、ひとりひとりのこどもについて、話し合いを丁寧に行い、支援目標や方法を考えている。また、支援後の振り返りを日々行い共有している。 | 職員ひとりひとりがこどもの発達を見取るための資質を向上させ、広く意見を集約した計画にする取組。また計画を実践する為の支援の向上。 |
| 2 | こどもや保護者の意思の尊重、最善の利益の優先の視点をもって丁寧に意向を確認し、立てた計画の説明を丁寧に行い同意を得て支援するという事。また、いつでも気軽に相談できる体制を整えていたり、事業所としても利用者の声を反映すべく体制を整えている事。 | 個別には定期的なモニタリングのほか、日常的な相談体制を整えること。 | ご家族や社会状況の変化を踏まえながら、必要な支援を保護者の方と考え、必要によって広く関係機関と支援体制を調整する。 |
| 3 | 保育園・こども園・幼稚園への移行や就学時の移行に向けて支援を行う。就園、就学先の選択を相談し、移行を支援する。 | 保護者の方へ進路に関する情報提供と相談を積み重ね、進路決定後には、情報提供等を行うとともに、同行支援や入園後の併行通園等の必要な支援を行う。就学については、サポートファイル(すこやかファイル)を使った情報提供を行う。 | 就園に関しては、インクルージョン推進を意識した移行支援を行う。就学は、ライフステージに応じた適切な支援を受けられるようサポートファイル(すこやかファイル)の充実を図る。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 保育園やこども園、幼稚園との交流や地域のこどもと活動する機会がない。 | ひとりひとりのお子さんの入園先や併行通園先の保育園・こども園・幼稚園との連携や支援を重視し、園としての交流の必要性を考えていない。 | 利用者のニーズを把握する取組を検討する。 |
| 2 | 地域の支援事業所や地域住民と連携を図り、地域全体の質の向上に取組む必要がある。 | 今年度は地域の事業所に向けた研修会やヒアリングを行い質の向上を目指した。また、障害者基幹相談センターとの連携により地域の療育、相談支援の質の向上に向けて取組を行った。 | さらに、研修会の質を高め地域の療育支援体制を整えていく。 |
| 3 | 家族支援のための研修の機会、情報提供が不足している。 | 保護者座談会を2回開催している。その他の研修会・情報について検討する。 | 研修や情報提供について必要性を見極めながら検討し、中・長期的に実践できる体制を整えたい。 |